



開校30周年を迎えて

大松台小学校 校長 水野 裕司

本校は、10月26日に、開校30周年の記念式典を無事に挙行することができました。本校の校歌には、学び合う、むつみ合う、きたえ合う、と「合う」という言葉が、3回も使われています。この校歌の精神を生かし、子供たちの学び合う場を大切にしたい学校作りを進めてきました。今後も保護者や地域の皆様の応援をいただきながら、「学ぶ喜びのある学校」を目指し教職員一同がんばってまいります。



多摩市立大松台小学校



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



UNESCO
Associated
Schools

知

開校30周年記念式典

令和元年10月26日（土）

オリパラ教育

- 基礎・基本の徹底 課題解決力育成
- 学習規律徹底（大松スタンダード）
- 読書活動の充実（朝読書・読書週間・読み聞かせ）
- SDGs（国連持続可能な開発目標）達成に向けた取組

安心・安全



- たてわり班活動（異学年交流）
- いじめ防止基本方針に基づく取組
- あいさつと言葉遣いの指導
- 特別の教科道徳の授業充実

- 体育科授業の充実・体育的活動の充実
- 校医による歯磨き指導・歯磨きタイム
- 保健指導、食育、薬物乱用防止教育
- 休み時間の外遊び奨励
- 学校保健委員会による校医・保護者連携

徳



体



家庭

PTA
まろにえ会

グリーンボランティア



おやじの会



読み聞かせボランティア



地域

放課後プラス

放課後子ども教室

水田愛耕会

からきだの道の会

青少協

唐木田児童館

大松台学童クラブ

唐木田駅前駐在所

各施設・店舗



緑の芝生の学校「なんつる」

多摩市立南鶴牧小学校

地域の芝生祭り「エコスポ祭り」 行事部芝生管理担当 教諭 亀井 崇史

ラグビーワールドカップが日本を席卷し、今もなお、日本代表選手がテレビに出演しているのをよく目にします。そんなラグビーワールドカップの主役を支元から支えた芝生があるのをご存知でしょうか。その名も「復興芝生」。宮城スタジアムはもちろん、日本対サモアが行われた豊田スタジアムでも、「復興芝生」が採用され、屈強な選手たちのスクラムにも負けることなく、陰で試合を支えました。

南鶴牧小学校の校庭もその「復興芝生」に勝るとも劣らない芝生になっていると思います。今秋で12年目に入り、一年を通した緑の芝生は本校の宝（レガシー）となっています。そんな、校庭芝生最大の地域行事がエコスポ祭りです。今年は校庭芝生化10周年記念として9月28日（土）に晴天のもと実施しました。南鶴牧小グリーンネットワーク委員会（地域の芝生維持管理団体）に加入している各団体が、計17のブースを催しました。校庭では、握力測定（父母教芝生担当）、二人三脚（おやじの会）、キックターゲット（鶴牧サッカークラブ）、スピードガンコンテスト（多摩ボーイズ）、スナッグゴルフ（放課後子ども教室）フライングディスク（多摩市スポーツ推進委員協議会）幼児もできるGボール（南鶴牧小学校）など、体の様々な機能を使った運動を楽しみました。運動だけでなく、学校で飼育している動物と触れ合うふれあい動物ランド、建物内では、車いす体験・老人体験（おやじの会）やほっこり茶道（茶道クラブ）も行い、五感を使った体験をすることができました。

「復興芝生」を生み出した業者は、「どんなに踏まれても立ち上がる強さが日本人と重なる。復興のシンボルとして世界に知ってほしい。」と語っています。「南鶴芝生」はどうでしょう。私は「保護者・地域・学校協力のシンボル」であると感じています。多くの方々に支えられながら教育活動を行うことができていることに改めて感謝申し上げ、子供たちの成長のためにますます協力を強めていきたいと思っています。



第19回学芸会

行事部学芸会担当 主任教諭 花房 優

各学年の演目

- 1年 ピカピカきんいろ ぼくら！
- 2年 おばけじぞう
- 3年 バード・ワールド・カーニバル
- 4年 宇宙へ
- 5年 人間になりたがった猫
- 6年 エルコスの祈り

令和元年11月8日（金）、9日（土）に南鶴牧小体育館にて「第19回 学芸会」を行いました。

普段おとなしいと思っていた子が、この日は多くの観客の前で、今までにないくらいに大きな声で思いを込めた演技をしていました。学芸会という行事を通し、自己表現する喜びが、その子を変えたのではないかと思います。同じせりふでも、誰が演じるかによって表現の仕方は変わり、演技を見る観客の反応も変わります。子どもたちは、物語の中に存在する登場人物の特徴と背景を読み取り、自分らしさを交えながら演技しました。どう表現するかは、その子の生きてきた経験や周りの演技の影響を受け、何度も練習を経る中で磨かれていきます。

学芸会を終えた後の達成感や充実感は、学年が一つになって目標を達成しようと、みんなで作品をつくり上げていく過程に育まれていくものだと思います。子供たちに学芸会のエピソードを聞くと、「オーディションで落ちて悔しかった。でも、決まった役をがんばった。」「せりふを大きな声で言えるようになるまで練習した。」「友達と休み時間に練習したから、上手になった気がする。」「この役になりきるために、性格や好きな物などの人物設定を細かく考えたら、より心を込めて演技できた。」というような、よりよい演技をしたいという思いが多く聞かれました。試行錯誤しながら、自分なりの表現を見い出していたのだと思います。

学芸会の実施に際しては保護者の皆様や地域の方々に多くのご理解とご協力をいただきました。感謝申し上げます。





多摩市立鶴牧中学校

HP アドレス <http://schit.net/tama/jhtsurumaki/>

教育目標

創造性に富み実行力ある生徒
自他敬愛の心をもち奉仕する生徒
心身ともに活気に満ちた生徒

創立 30 周年

11月2日(土)本校創立30周年記念式典を行いました。生徒によるメッセージでは、鶴牧中の歴史や特色、現在の鶴中生、未来へ向かってという3つの構成で、生徒アンケート結果も交えながら、代表生徒からメッセージが発表されました。生徒全員合唱も迫力があり、式典を盛り上げてくれました。また、正門階段下に設置されている木製の銘板が古くなっていたことから、創立30周年を記念して、新しく制作するボランティアに2年生4名が取り組んでくれました。開校ときに植樹された檜の木を加工しましたが、檜の木はとても堅く、削るのが大変でした。また、文字入れは、黒の塗料を垂らさないように細心の注意を払いました。完成した作品はとても立派で、創立30周年を飾るにふさわしい出来栄でした。



Tsurumaki English Day Camp!

8月5日(月)と6日(火)9時30分から14時30分まで、英語で生活する English Day Camp に19名が参加しました。ニュージーランド・トリニダードトバゴ・ウズベキスタン・フィリピンの外国人講師や中央大学の皆さんとゲームや異文化理解活動、英語劇、英会話などに取り組みました。



音楽祭

10月17日(木)日野市民会館・煉瓦ホールにおいて音楽祭を開催しました。初めての音楽祭という緊張感を乗り越え、素敵な歌声を響かせてくれた1年生、この1年間の成長を実感させ、来年へのさらなる期待を抱かせてくれた2年生、最上級生としての自覚をもち、曲想豊かに表現する姿が多く観客に感動を与えてくれた3年生、迫力ある有志の合唱や音楽の楽しさ、素晴らしさを伝えてくれた吹奏楽部の演奏など、生徒の力をたくさん感じる事ができた音楽祭となりました。



防災デイキャンプ

10月2日(水)、1年生は防災デイキャンプに取り組みました。多くの被災地で支援活動をされている日本赤十字社の皆様を講師とし、非常災害時における避難所での生活体験を通して、自助・共助の知識や技能を身に付けること、また災害の想定やそれに向けた備え等を確実に実行する能力や態度の育成を図ることを目的に実施しました。バンダナを使った応急手当や新聞スリッパ作りなどに取り組みました。



修学旅行

9月10日(火)から12日(木)まで、3年生は京都・奈良へ修学旅行に行きました。1日目は法隆寺や奈良公園の見学、2日目は京都市内での体験活動も含めた班行動、3日目は京都市内の別班タクシー行動を行いました。台風の影響による暑さもありましたが、一人一人が時間を意識しながら行動するとともに、体験活動などを通して、日本の伝統・文化への理解を深めることができました。



展覧会を終えて

図工専科 主幹教諭 天野 拓二

2年に1度の展覧会。今年は11月7日（木）から10日（日）までの4日間、大松台小学校の体育館にて開催しました。開催期間中は保護者の方々をはじめ、地域の方々、学校関係者の方々など多くの皆様にご来場頂き、大変盛り上がった素晴らしい展覧会となりました。最終日にも200人近い方々に来ていただきました。本当にありがとうございました。

今回の展覧会のテーマは「楽しく表現しよう～みんなのひらめき、あふれる思い、大松っ子の力」です。普段の図工や家庭科での子供たちの姿、表現する力をこの展覧会で作品を通して感じてもらえたのではないかと思います。子供たちの多種多様な作品には一人一人の思いがあり、決して同じものはありません。私は作品を見ながら「一生懸命に色を作っていたね」「釘を打つのに苦労していたね」「こんな形を思いつくなんて素敵だな」など自然に心で会話しています。作品からも「きれいにできましたよ」「ここの色がすごく気に入ってるんだ」といった子供たちの声が聞こえてきます。子供たちが一生懸命に制作した作品にはそんな力があります。作品展示の方法も教職員が全員でアイデアを出しながら行いました。体育館に入った子供たちは「わー、すごい！かっこいい！」「体育館が大松台美術館になっている！」と興奮した様子で声をあげていました。その美術館に自分の作品が飾ってあることで、なんだか誇らしいような、そんな気持ちになったのではないのでしょうか。また、この展覧会を開催する1つの大きな意味として「鑑賞する力を育てる」ということがあります。子供たちが互いのよさを感じたり、受け入れたりするということはこれからの子供たちにとって必要な力です。大松台小学校では①各学年での鑑賞 ②縦割りペアでの鑑賞 ③子供たちが自分で作品を紹介する「子どもガイド」という3つの鑑賞活動を行っています。縦割り鑑賞では上級生と下級生が温かい交流をしながら鑑賞している姿が見られました。やさしく丁寧に説明する上級生、恥ずかしそうに自分の作品を見せる下級生、ほほえましい姿です。「子どもガイド」では少し照れながらも大人の方に自分たちの作品を自分の言葉で一生懸命に説明している姿に、こちらの心も温かくなりました。このような見る活動、伝える活動を通して、子供たちの表現活動の幅も更に大きく広がり、一人ひとりの生きていく力となったと思います。

展覧会を終えて

家庭科専科 主任教諭 濱田 会美

家庭科の持ち物や学習支援といったさまざまな面で日々ご協力いただきありがとうございます。玉どめがうまくできない、縫った糸が絡まる、縫った糸を切り取りやり直す、といった苦戦をする子供たちでしたが、作品づくりを諦めずに最後までやり遂げたときの表情はとても満足感に満ちたものでした。そんな姿や、子供たち同士で声を掛け合って教えあう姿に、家庭科の学習を通しての彼らの成長を感じました。難しいことや初めてのことから逃げるのではなく、少しずつ練習して自分のものにしていく姿勢を、その過程を、しっかり認めて褒めながら今後も授業を進めていきたいと考えています。

